

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	4-1-2		事業名	舞台芸術創作活動支援事業
担当	観光文化局文化部市民文化課 高橋 211-2261			
全体計画（当初）				
事業内容	演劇などの文化活動に係る創作・発表の活動拠点として、NPO等が既存のスペースを借り受けた場合、当該賃借料相当額の一部を一定期間補助する。		＜年度別の事業内容＞	
	地域に根ざした芸術文化団体の支援等、地域文化を継続して育成できる仕組みを検討する。		について 平成17年度：補助制度構築の調査・試行 平成18年度：3団体に対する補助を行う について 平成17年度及び18年度：育成の仕組みづくりの検討等	
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
			について 団体の活動状況を調査し、試行的に平成17年10月1日から6カ月間2団体の補助を実施する。 ＜補助した団体＞ 劇団千年王国・劇団イナダ組 について 育成の仕組みづくりの検討	
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	について 市内で活動する演劇などの団体から応募を受け、選考委員会にて6団体を選考し、活動の拠点に対する家賃・会場使用料等の一部を補助する。 ＜補助する団体＞ 劇団AND、劇団イナダ組、劇団演劇集合体マキニウム、劇団千年王国、札幌演劇人育成委員会 苗穂聖ロイヤル歌劇団、ゴールデンキラーズ について 育成の仕組みづくりの検討		平成17年度の試行を経て、平成18年度から本格実施した。本事業にて補助を受けることで、各劇団の経済的負担が緩和され、活動が活発になるなど演劇団体の育成に貢献している。また、補助団体による公演や市民向けのワークショップなども活発に行われ、市民の芸術文化の振興にも大いに貢献した。	
			課題	
			本事業が、市民の間に根付き、創作活動の活性化につながり、演劇がまちの魅力となるためには、事業内容のさらなる効果的な周知の実施が必要である。 また、演劇団体のニーズの把握など本事業の検証を行い、芸術文化団体の育成の仕組みづくりなどについての検討が必要である。	
19年度以降の方向性・事業の予定				
芸術文化の振興と演劇等によるまちの活性化や集客交流を図るため、事業を継続する。また、より効果的な制度となるよう、さらに制度の周知を図るとともに、劇団等のニーズの把握に努め、時宜に応じた見直しを行う。				

